



下町荒川実習

平成25年11月9日（土）、東京都市大学の学外講義の一環として、「下町荒川実習」を開催しました。この実習には、共同通信社や地方紙の関係者も同行されました。

まず第一部では、荒川知水資料館（amoa）にて、荒川放水路の歴史、首都を貫流する荒川放水路の治水上の役割、またその重要性についての見識を深めていただきました。

第二部においては災害対策支援船「あらかわ号」に乗船し、荒川下流域の治水事業や震災対策事業等を船上より見学しました。

荒川知水資料館（amoa）

荒川知水資料館（amoa）では、現在の荒川や荒川放水路の計画概要、更には荒川のみならず、関東平野における河川や周辺地理の変遷についても学びました。その変遷を追っていくとなんと、現在「荒川」と呼んでいる下流部は人工的に作られた放水路なのです。

荒川放水路完成以前、繰り返し発生する水害に住民は悩まされ、河川改修への機運は高まってきました。それを受けて荒川放水路が20年の歳月を費やし開削されたのです。普段は当たり前を感じる景色の中にも、長い歴史や先人達の努力が隠されているんですね！

荒川は東京を抱える重要な都市河川

東京は昔洪水が頻繁に起こる地域だった！

昔は日本堤と墨田堤が江戸を水害から守っていた！

現在は堤防の浸透対策や、高規格堤防を推進しています！





下町荒川実習

災害対策支援船あらかわ号

続いての第二部、災害対策支援船「あらかわ号」では実際に荒川を下り、皆様に船上より見学して頂きながらの学習です。

「あらかわ号」は災害が起きた時、速やかに物資や人員を輸送できるよう通常時は座席となっている部分も取り外すことができます！

岩淵緊急用船着場から河口まで約21km、荒川放水路を下る中で様々な土木技術を見学しました。中でも最大で3m近くの水位差を体感できる、荒川放水路と旧中川を繋ぐ「荒川ロックゲート」に込められた技術には、皆さん驚きでした！

また、船内では、東京都市大学の担当講師から、荒川や隅田川沿川の下町の歴史についての講義も行われました。往時に思いを巡らせながら、船上より現在の街並みを見ると感慨深いものがありますね！

旧岩淵水門は
近代土木遺産
なんですよ！



荒川ロックゲート
で体感できる水
位差はすごい！



いつも当たり前のように流れている荒川放水路にも長い歴史があり、困難を乗り越えるための多くの努力や技術が込められています。

私たちの安全安心な生活の基盤でもある荒川放水路に少しでも興味を持ち、知って頂ければ幸いです。

今後とも、国土交通行政にご理解ご協力よろしくお願い致します。